

事故・トラブル事例【設備工事】

2020年9月

**NTTファシリティーズ中央
首都圏事業本部
NTTエンジニアリング部**

事 例	概 要
トイレブース内の給水配管接合部からの漏水	トイレ整備工事の引渡し後1ヶ月にF Vの給水管接合部が抜け、下階に漏水した。
エレベータ更改工事における配線誤切断事故（1）	エレベータシャフト内の既設配線撤去作業中に現用配線を誤切断し、エレベータが緊急停止し、かご内に人が閉じ込められた。
エレベータ更改工事における配線誤切断事故（2）	ELV機械室にてワイヤーを固定するツナ止め梁（溝型鋼）の撤去新設に伴い床面をはつり作業中、埋設されていた巻き上げ機用冷却ファン電源（AC200V）の配管、及び配線にハンマードリルが接触し、ケーブル損傷に伴い、地絡状態となり非常用エンジン運転に切り替えとなった。
ELV更改工事の塗装における第三者被害について	ELV更改工事において塗装工程の準備作業中に、第三者被害が発生した
軽量鉄骨天井下地解体中における天井内のケーブル損傷について	軽量鉄骨天井下地解体中に、天井内の配線を損傷した

事 例	概 要
水防対策工事油ポンプ不動作 事象について	工事で予備エンジン室の防油堤の障害物となっていたボックスの移設を行ったが、後日現用の油ポンプが動作しない事象が発生 調査の結果、ボックスを移設した際に切り離しを行った配線が現用油ポンプの電源ケーブルであったことが判明した
階段移動中の作業員負傷 (骨折)	9階から8階に移動中、階段の感知器発報試験状況を撮影中に踊り場から4段目の箇所でつまずいて、2段目の角に右足のくるぶしをぶつけて、踊り場に転倒した
中央監視装置更改作業中におけるエレベータの連動停止	中央監視装置のシステム制御盤の改造作業中に乗用エレベータが停電信号により連動停止した
現用地下埋設給水管の切断 事故	築庭においてバックホーショベル(0.15m ³)にて、掘削作業中に埋設されていた屋外給水配管(ビニルパイプ管)を切断した
衛星アンテナの電波路遮断	レッカーによる資材の荷揚げ、荷下ろし作業中に衛星アンテナの前をレッカーのブームが横切り、電波路を一次遮断したことによる電波障害が発生

■ 事故事例 1 ＜事故概要＞：給水配管接合部からの漏水

3

項 目	内 容
発 生 状 況	「●●ビルだれでもトイレ化模様替衛生その他工事」の引き渡し1ヶ月後に1階トイレの給水配管接合部（洗浄水配管）が抜け、B 2 F 電力制御室及び電力室に漏水した。
発 生 日 時	2020年4月23日（木） 15：02
工 事 概 要	トイレ模様替工事 （工期：2019年11月29日～2020年3月19日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	1 F 廊下、B 1 F 廊下・E P S、B 2 F 電力制御室・電力室に漏水 なお、電気通信サービスに影響なし

1. 事故発生状況

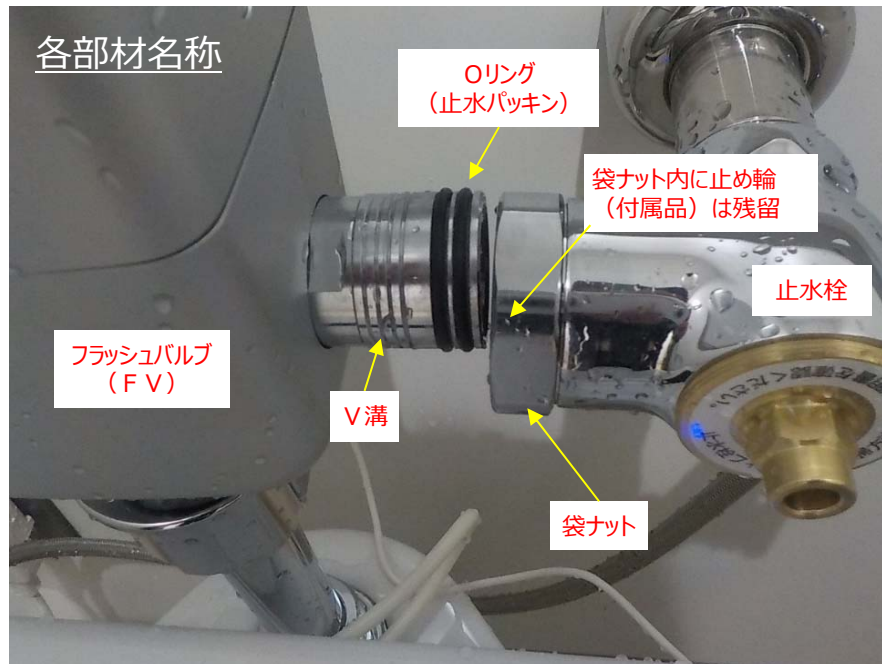
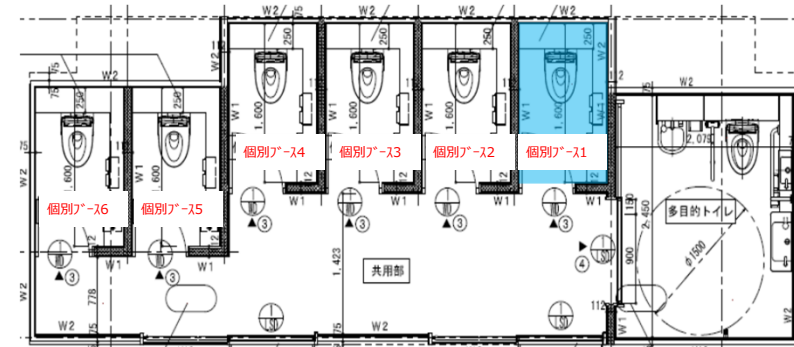
4

現場状況【事故発生状況】

1.配管接続部の状況

- フラッシュバルブ (FV) 一次側接続部が外れ、漏水した。
メーカー付属品は全て装着されており、止め輪は袋ナット内に納まった状態で止水栓側に残っていた。
- F V部と止水弁部との接続部は、
 - ・Oリング (止水パッキン)
 - ・**止め輪** (袋ナットにて両部を締付け固定) にて固定される、給水キット商品である

<平面図>



※上記写真は漏水直後の状態 (止め輪は袋ナット内に残っていた)

2.漏水状況

1階トイレブース内から漏水し、電気シャフト経由で下階の電力室、電力制御室まで漏水。



<1階トイレ内>



<地1階電力制御室内>

2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

事象発生原因

洗浄配管の接続付属品（止め輪）の取付位置が正常な位置でなかったため、当初は漏水していなかったが、何らかの要因により袋ナットが緩み、漏水が発生した。

主な問題点

器具製造メーカーの作業手順に従い、配管接続したが付属品の納まり具合等の写真や施工チェック等の証跡がなく、作業手順とおりの正常な施工となっているのか証明できない。

再発防止策

止め輪・袋ナット構造の F V は器具ごとに施工チェックリストを作成のうえ、施工写真とともに記録を残し、保管する。

【参考】施工チェックシート

大便器FV取付チェックシート

更新日：2020/5/7

工 事 處

階数:

電 名:

● ● ● 機 式 命 社

最終チェック確認者・完了日：

現場代理人

[illegible]

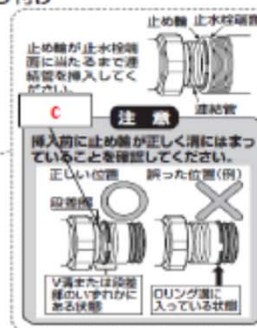
備考：	※a～gまでの各項目ごとに写真(目付入)で記録すること
-----	-----------------------------

※このシートは、自動FVの給水管接続方法がアジャスト機能構造の場合使用する。

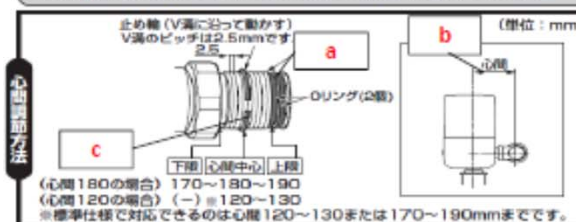
従来の止水栓に部にFV本体を締め付ける構造の場合は不要とする。

5-1 自動フラッシュバルブ本体の取り付け

- ③自動フラッシュバルブ本体と止水栓の心臓
にズレがある場合は、下記の「**調整方法**」
を参照して、調整する。

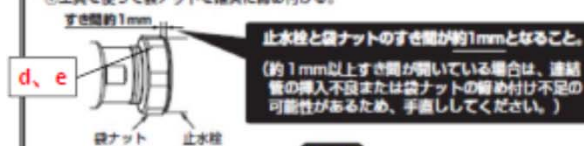


- 注意**
- つば付き洗淨管の袋ナット部には必ずパッキンが入っていることを確認してください。
 - つば付き洗淨管が長い場合はスパッド側を切断し、調節してください。



52 自動フラッシュバルブ本体の取り付け（つづき）

- ④工具を使って袋ナットを確実に締め付ける。



- 止め輪が変形している場合は使用しないでください。止め輪と緩ナットは確実に施工してください。(正しく施工されていない場合、水が噴き出て、石材などをめらす財産損害発生のおそれがあります。)
- 自動フラッシュバルブ本体は縦向きに取り付けてください。斜めや横向きに取り付けると不具合の原因になります。

■ 事故事例 2 ＜事故概要＞：配線誤切断事故（1）

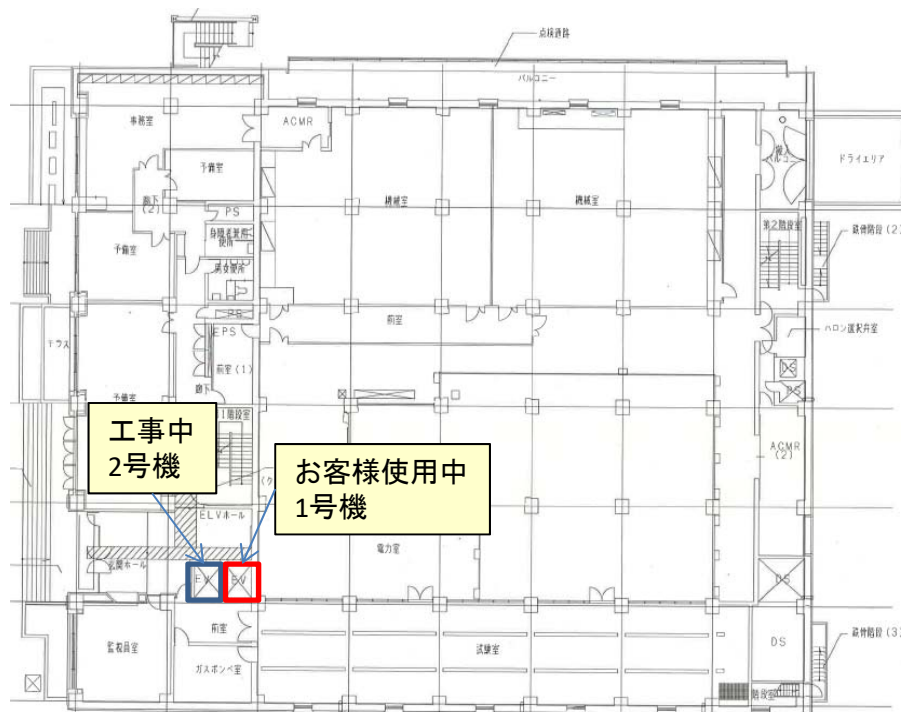
6

項 目	内 容
発 生 状 況	撤去作業中に、乗り場のホールボタンの電源・制御線を切断しようとした際に短絡させ、現用エレベータが緊急停止し、かご内に社員様 1 名が閉じ込められた。 なお、かご内の閉じ込められた方はエレベータ保守者により約7分後に救出された。
発 生 日 時	2019年10月18日（金） 10：15
工 事 概 要	エレベータ更改工事 （工期：2019年3月29日～2019年12月20日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	エレベータかご内に社員様 1 名が閉じ込められ、エレベータ保守者により約7分後に救出された。

1. 事故発生状況

7

現場状況【事故発生状況】



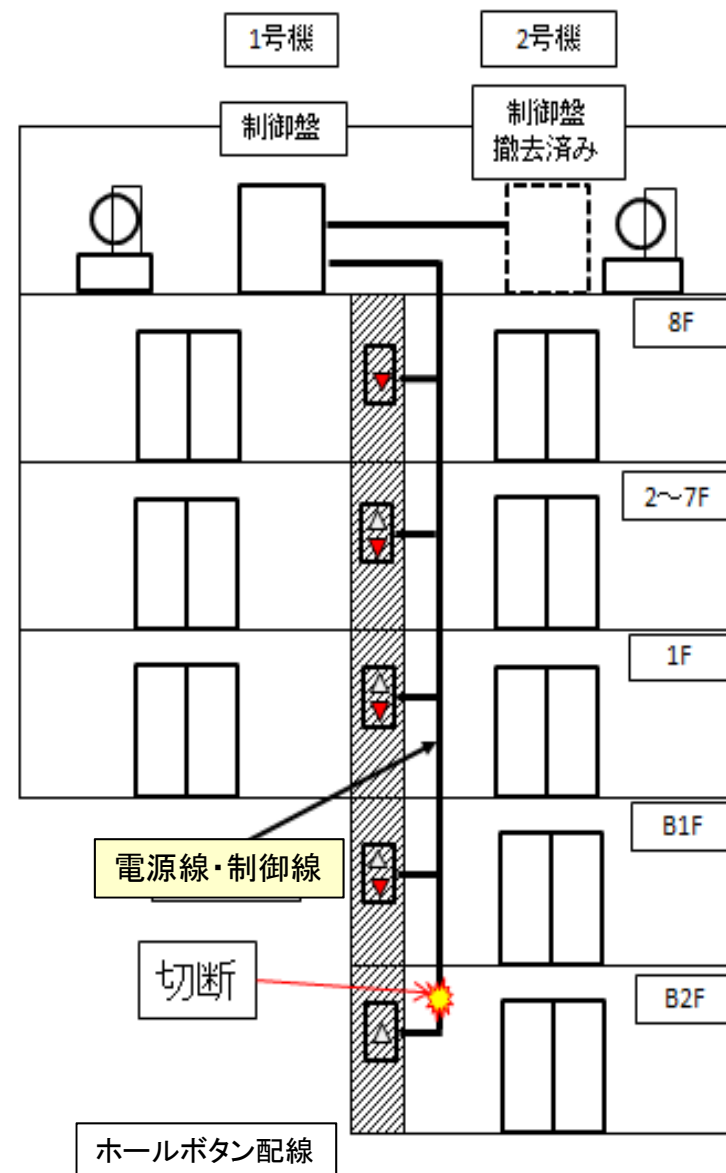
配置図



復旧後のホールボタン配線



エレベーター2号機 (B2階)



2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

事象発生原因

- 施工要領書に2台グループエレベータの配線撤去時のリスクが明記されていなかった
- 2台グループエレベータの乗り場ボタン配線撤去時の作業指示が明確でなかった
- 配線撤去前に無電圧状態の確認が出来ていなかった

主な問題点

- 施工要領書作成時に**リスクの洗い出しが不足**していて、具体的な指示ができていなかった
- 前日の作業予定工程の打合せ時に作業内容の詳細まで打ち合わせしていなかった
- 配線撤去時に**無電圧確認**を行う、習慣・指示が無かった

2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

再発防止策

現場代理人は

- 施工手順書に配線撤去時のリスクを追記し、作業員全員に周知を行う
- 作業・安全指示書に当日の作業内容を明確に記載し、職長と相互で内容確認を行う
- 施工手順書に配線撤去時は検電器にて0電圧を確認することを記載し、配線撤去時は**検電器にて0電圧を確認**する

■ 事故事例 3 <事故概要> : 配線誤切断事故 (2)

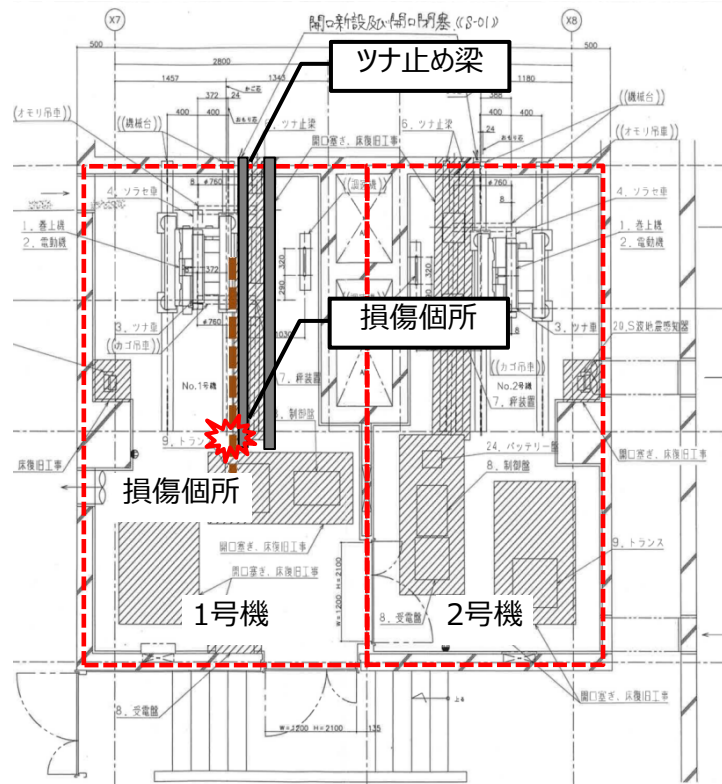
10

項 目	内 容
発 生 状 況	ELV機械室にてワイヤーを固定するツナ止め梁（溝型鋼）の撤去新設に伴い床面をはつり作業中、埋設されていた巻き上げ機用冷却ファン電源（AC200V）の配管、及び配線にハンマードリルが接触し、ケーブル損傷に伴い、地絡状態となり非常用エンジン運転に切り替えとなった。
発 生 日 時	2019年11月9日（土） 14 : 09
工 事 概 要	エレベータ更改工事 （工期：2019年4月26日～2019年12月20日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	地絡の発生により、通信ビル（2ビル）の受電装置を一時停電させた。

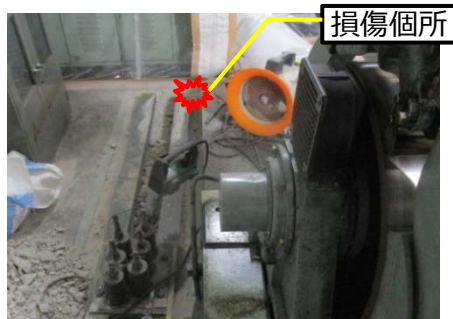
1. 事故発生状況

11

現場状況【事故発生状況】

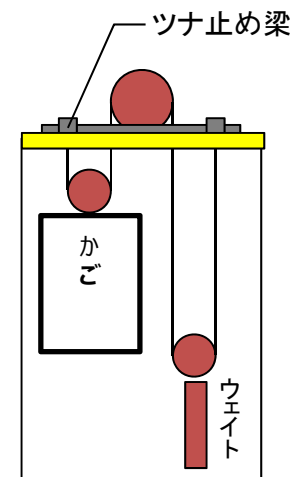


●階 E L V 機械室 平面図



①はつり →

②ワイヤー交換のための固定作業 →



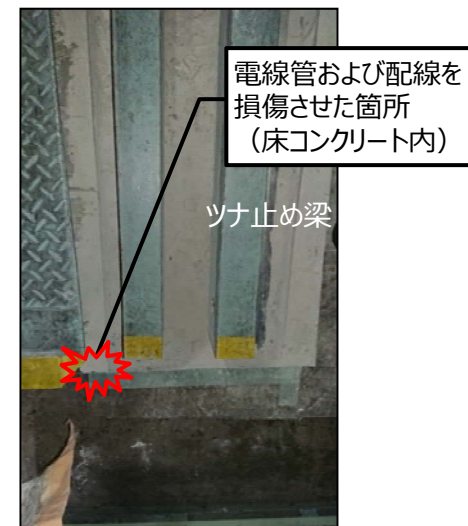
①かごとウェイトを支えるワイヤーを固定しているツナ止め梁を撤去する為、床面のコンクリートのはつり作業を行っていた

②ワイヤーを交換する為にエレベーターを動かしながらかごとウェイトの固定作業を行っていた

エレベーター断面イメージ図（当日の作業内容）



ツナ止め梁全景



損傷箇所

2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

事象発生原因

- ELVの電源断の重要性の認識が低かった。
- 埋設配線の損傷による影響の理解不足
- 作業手順が不明確の為、立ち止まりが必要な作業だと認識していなかった

主な問題点

- ELVの電源断を行ってから、はつり作業をする手順としなかった
- ハンマードリルが近傍の鋼材に触れてしまいメタルセンサーが何度も作動したため、作業員の判断でメタルセンサーを停止させて、はつり作業を継続した

再発防止策

現場代理人は

- 作業員に対し、エレベータの電源断をしてからはつり作業に着手することをK Y 検討会にて説明する
- 作業手順書を用いて埋設探査、電源断確認、はつり作業の作業項目をチェックする
- 着手前に**ELV電源断を行ってからはつり作業を行う工程**を組み、工程表に記載する。

【参考】エレベータ更改工事における配線誤切断の多発について

東日本エリアで発生した乗り場ボタン電源・制御ケーブルの短絡による、ビル入居者の閉じ込め事故から1ヶ月以内に同エリア内においてコンクリート内に埋設された巻上機冷却ファン電源ケーブルの地絡による全館停電事故が発生するなど、**エレベータリニューアル工事中の事故（電源関連）が多発**している。

【事件事例-1】（2019.10.18発生）

・エレベータ同時停止時に撤去予定としていた昇降路内の乗り場ボタン電源ケーブルを切断しようとして短絡させ、現用エレベータが緊急停止した。

（問題点）

- ・作業指示者が、代理人補助者であり現場状況リスクを**引き継ぎ出来ていなかった**
- ・施工要領書に2台グループエレベータの**配線撤去時のリスク**が明記されていなかった
- ・2台グループエレベータの乗り場ボタン配線撤去時の**作業指示が明確でなかった**
- ・配線撤去前に**無電圧状態の確認**が出来ていなかった

【事件事例-2】（2019.11.9発生）

・エレベータ機械室内において床研り作業中に埋設電源ケーブルにハンマドリルが接触し、ケーブル損傷に伴い、地絡状態となり、全館停電した。

（問題点）

- ・エレベータの**電源断措置の理解が不足**していた
- ・エレベータの**電源断**を行ってから研り作業をする手順としなかった
- ・エレベータの**電源断**を行える工程としなかった
- ・**作業員の判断のみ**でメタルセンサーを停止させて、研り作業を継続した

確実に実施してほしいこと（共通事項）

- ・作業指示書、作業手順書に作業内容を明確にし、作業員に**確実に作業内容、及びリスクを伝達**する
- ・**アンカー打設、コンクリート研り作業**がある場合は埋設物の事前確認を徹底して行う
- ・埋設物確認方法を事前検討会で**確実に確認（設備現況図確認、非破壊探査、メタルセンサリール）**
- ・短絡、地絡による停電に伴う、**人身事故（感電含む）や通信障害事故に繋がる**可能性が極めて大きい
- ・**電源断作業を原則とし、0（ゼロ）電圧確認**による作業手順を徹底する
- ・**想定外事象が発生した場合**は、直ちに作業を中止して立ち止まり、**監理者に報告・確認**する

■ 事故事例 4 ＜事故概要＞：塗装における第三者被害

15

項 目	内 容
発 生 状 況	「●●ビルELV更改工事」における塗装工程の準備作業中に、第三者被害が発生した。
発 生 日 時	2018年8月13日（月） 9：40
工 事 概 要	ELV更改工事 （工期：2018年5月8日～2018年12月21日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	ビル清掃員が男子トイレの清掃作業を行っている時に、塗装作業員が男子トイレに隣接するエレベータホールで塗料の希釈を開始。ビル清掃員は、塗料の臭いが原因で体調不調となり、病院で診察の結果「急性中毒」と診断。（8/13） その後、通常通りの業務に復帰。（8/15）

1. 事故発生状況

16

現場状況【事故発生状況】



三方枠・扉

塗装箇所(三方枠・扉) (1階)



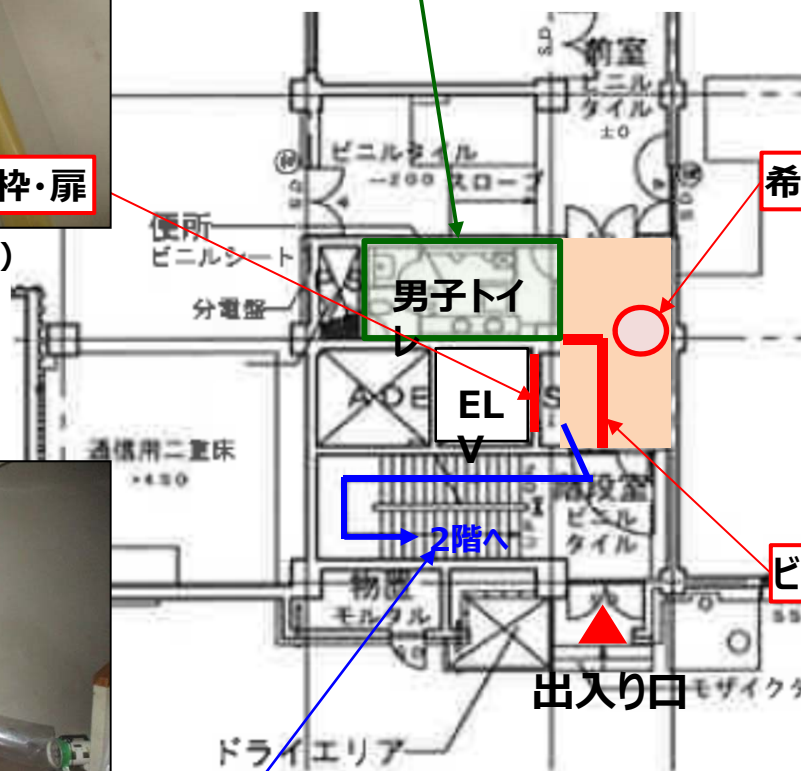
希釈作業エリア

希釈作業エリア(1階)



仮設排気ダクト(2階バルコニー)

仮設換気ダクト(2階バルコニーへ)



三方枠・扉塗装エリア(1階)

2. 発生原因と問題点

事象発生原因

合成樹脂塗料をシンナーで希釈する際、不適切な環境(換気がない場所、第三者が立ち入り可能)で作業を実施した。

主な問題点

塗装作業の危険性について、準備工程まで考慮する認識が及ばなかった。

再発防止策

現場、工事監理者へ再徹底する。

- ①塗料希釈作業場所についても注意する
- ②作業前のKYMTGにて、臭気物周辺の換気実施、防護具着用について再度注意喚起する
- ③影響範囲に**第三者が進入する可能性がある**場合、区画・掲示・通行止めする
- ④換気が適切に行われているか、**給排気の確保**、作業前に風量計等を使用し確認をする
- ⑤関係者との実施作業日調整
(全ての入居者への周知徹底及び、入居者の少ない休日作業等)
- ⑥原則、塗装作業エリアへの入室禁止とする
(作業エリア内に入室者がいた場合は退出させるよう作業員にも指導)

■ 事故事例 5 <事故概要> : 天井内のケーブル損傷

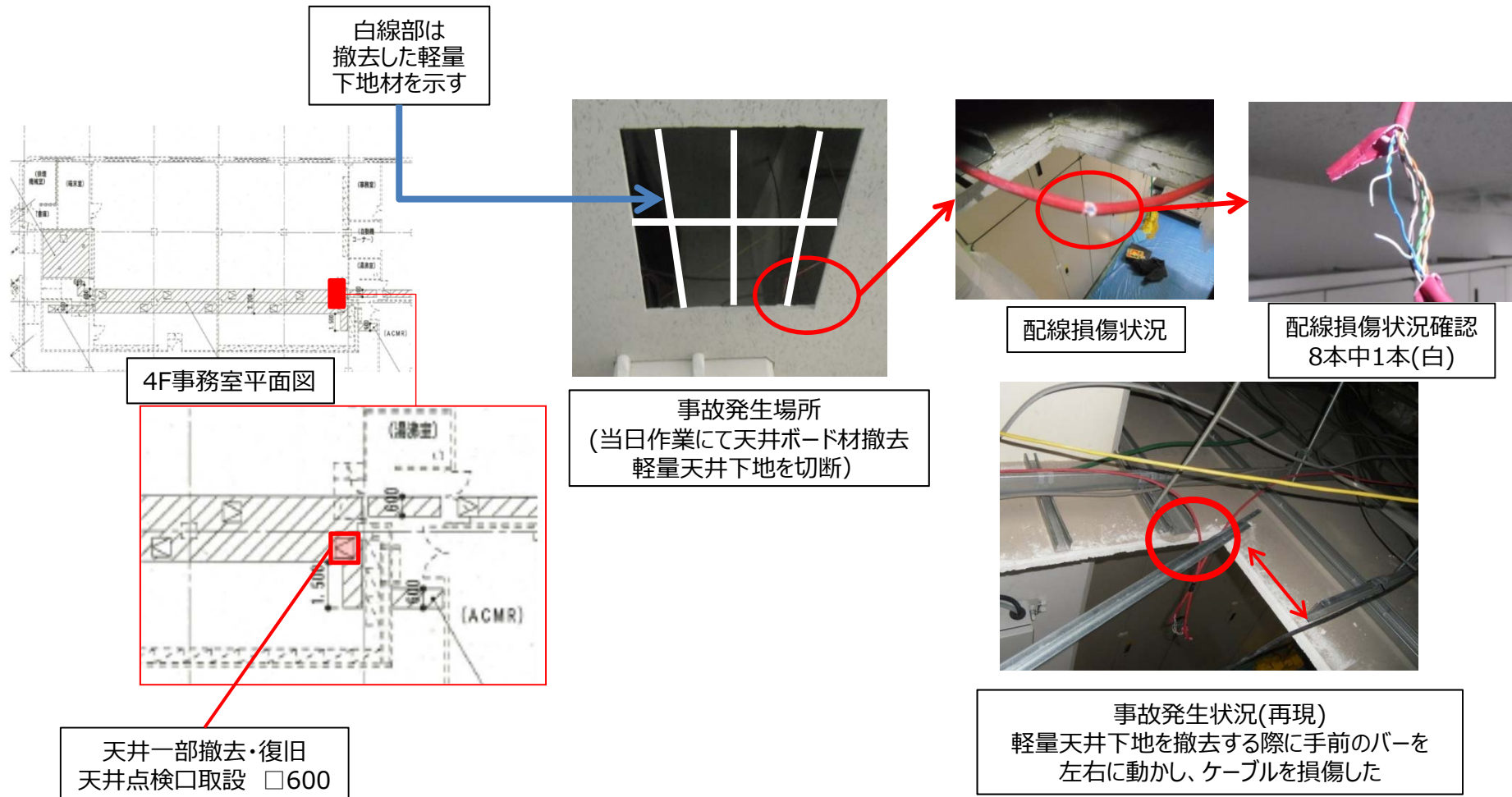
19

項 目	内 容
発 生 状 況	軽量鉄骨天井下地解体中に、天井内の配線を損傷した (連動停止・ベル停止中、F O Cへの発報無)
発 生 日 時	2018年4月12日 (日) 11時00分頃 天候 : 晴
工 事 概 要	4F事務室 : 加湿用給水配管敷設、天井開口作業、照明器具取外取付 (工期 : 2018年2月18日～2018年12月20日)
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	天井内のWAKENET用ケーブルの一部損傷

1. 事故発生状況

20

現場状況【事故発生状況】



2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

21

事象発生原因

軽量天井下地撤去時にケーブルが見えており、余長があったのに、仮支持をしなかった。

主な問題点

- ・天井ボード仕上材撤去後の配線状況の再確認をしなかった。
- ・作業員のケーブル近傍作業時の**安全に対する意識が欠如**していた。

再発防止策

<天井撤去方法>

・天井仕上材撤去方法

- ① **切り込み深さの管理**が行えるボードカッターを使用する。
- ② 職長は天井仕上げを確認し、ボードカッターの切り込み深さを作業員に指示する。
- ③ 作業員はカッター刃の長さをボード厚さ-3mmに設定する。
- ④ ボードカッターで天井仕上げ材に切り込みを入れたのち、仕上げ材を撤去する。

・軽量天井下地撤去

- ① 撤去作業前に職長は天井内の配線の状況（軽量天井下地内含む）を**目視で確認**を行う。
- ③ 配線が有った場合、職長は開口端部より水平方向150mm以上離れた**吊ボルト・野縁に養生テープで固定**するように作業員へ指示する。
- ④ 水平方向の離隔が取れない場合、職長は現場代理人に報告する。
- ⑤ 現場代理人は現地を確認し、配線の処理方法について決定する。

■ 事故事例 6 <事故概要>：油ポンプ不動作事象について

23

項 目	内 容
発 生 状 況	工事で予備エンジン室の防油堤の障害物となっていたボックスの移設を行ったが、後日現用の油ポンプが動作しない事象が発生。調査の結果、ボックスを移設した際に切り離しを行った配線が油ポンプの電源であったことが判明した。
発 生 日	2019年4月24日（水）
工 事 概 要	水防対策工事 （工期：2018年10月12日～2019年7月26日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	油ポンプの動作不良

1-3. 事故発生状況

24

現場状況【事故発生状況】

B3F予備エンジン室
防油堤障害物



現用ポンプ電源ケーブルを
切断

2. 発生原因、問題点、及び再発防止策

主な問題点

- ①各社の認識に相違がある中で、工事を実施した。
- ②コンセント回路と思い込み、十分な事前調査を実施せず安易に撤去作業を実施した。
- ③工事着手前、電気現況図にて工事対象コンセントの確認を行い記載がなかったが、記載漏れと思込み**他設備の現況図を確認しなかった。**

再発防止策

【請負者】

- ①業者間の個々での打合せは行わず、定例打合せでNTT-F監理者含め協議・調整を実施する。
- ②事前調査を確実に実施し、負荷側を確認してから実施する。
- ③電気現況図に記載が無い場合、**他設備の現況図を確認し、用途を明らかにした上で工事を実施する。**

【NTT-F】

- ①担当者は、検討・実施設計時に建築、設備で内容の整合確認を行い、当初計画と変更となった場合は現地再調査を基本とした確認作業を行う。
- ②監理者は、請負者より設計図面に記載の無い想定外作業の報告を受けた場合は、設計者に必ず相談のうえ現地確認及び、作業指示する事を基本とし、承認無しに作業させないよう請負者の指導を徹底する。
- ③特に建築・設備複合案件においては、共通の課題整理表により専門工事に関係なく関係者全員で解決を図る。

■ 事故事例 7 <事故概要> : 階段移動中の作業員負傷（骨折）

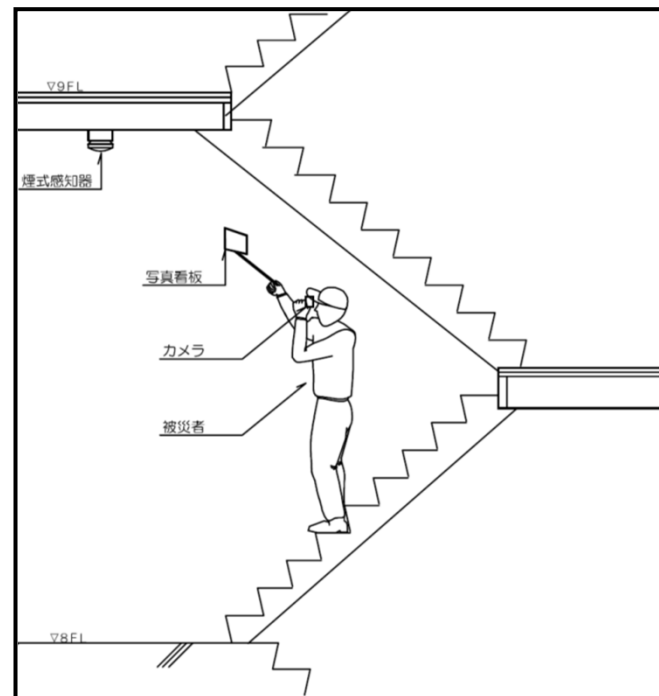
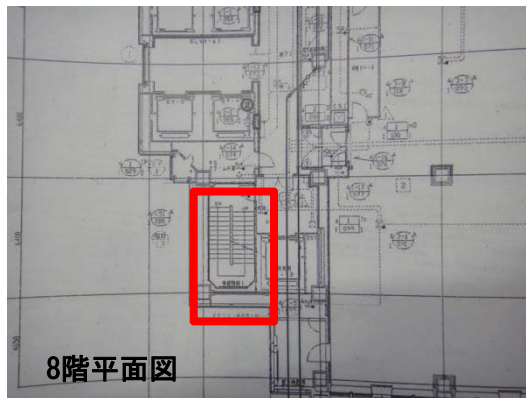
26

項 目	内 容
発 生 状 況	9階から8階に移動中、階段の感知器発報試験状況を撮影中に踊り場から4段目の箇所をつまずいて、2段目の角に右足のくるぶしをぶつけて、踊り場に転倒した。
発 生 日 時	2019年5月8日（水） 23：00頃
工 事 概 要	火災報知設備更改工事 （工期：2018年11月15日 ～ 2019年6月10日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	右足首の骨折（全治期間は約1ヶ月の見込み）

1. 事故発生状況

27

現場状況【事故発生状況】



2. 発生原因と問題点

事象発生原因

職長が階段を移動中に、踊り場上部にある感知器発報試験を開始した為、被災者は慌てて写真撮影を行なおうとした。

主な問題点

職長が階段を移動しながら、作業関係者に合図を送ることなく、感知器発報試験を開始した。

再発防止策

①職長はミーティング時に写真撮影場所などの当日の作業ルールを指定して、全作業員に周知する。

現場代理人はそのミーティングに参画し、指導・助言する。

②現場代理人は、作業再開前に緊急ミーティングを開催し、下記を作業員全員に周知する。

（１）移動しながらの感知器発報試験の実施など**「ながら作業」の禁止**

（２）職長は、各種試験において、各工程ごとに関係作業員の配置準備が完了したことを確認、合図を行ったうえで作業開始すること

（３）現場代理人・職長・作業員は立場や上下関係なく声掛けするようにし、特に異常発生時はコミュニケーションを密に行い、事象の確認を皆で行うこと

③NTT-F監理者は、上記①②の履行確認を実施する。

■ 事故事例 8 <事故概要> : エレベータの連動停止

30

項 目	内 容
発 生 状 況	中央監視装置更改工事において既設システム制御盤の改造作業中に「停電信号」が外出出力され、乗用エレベータが連動停止した。
発 生 日 時	2020年7月18日（土） 11：00頃
工 事 概 要	中央監視装置更改工事 （工期：2020年3月10日 ～ 2020年10月26日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	停電信号により、乗用エレベータが連動停止 ※かご内の人への閉じ込めは無し

1. 事故発生状況

31

現場状況【事故発生状況】



既設システム制御盤
(中央監視装置用)

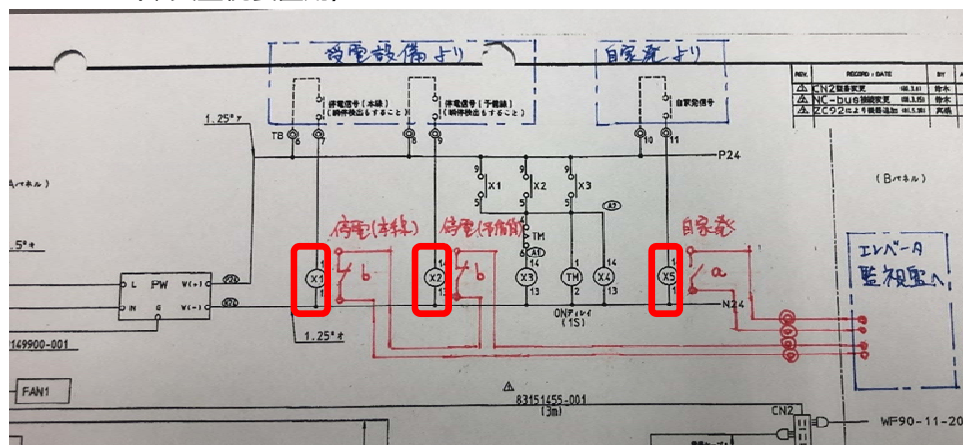
システム制御盤（中央監視装置用）内のリレー、移報端子を使用して、エレベータ監視盤へ停電信号を出力していた。

システム制御盤の更改に伴い、盤内配線を離線した際に停電信号が移報されエレベータ監視盤が停電と認識して、常用エレベータが停止した。



停電信号の離線箇所

外部端子



既設システム制御盤図

※赤青手書きは図面に記載なき内容

連動停止



事象発生原因

- システム制御盤の既設完成図と更改製作図にエレベータ盤への出力回路図が記載されていなかった。
- 現場代理人と職長は、システム制御盤からは中央監視の対象設備以外への外部出力は無いと思い込み、既設の配線調査をしていない。

主な問題点

- 既設制御盤図と現地制御盤の整合確認実施されていない
- 更改作業に際し、離線作業後、エレベータ連動停止の有無を現地にて確認し、次工程に進む旨が作業手順書に明記されていない。

再発防止策

1. 施工計画時

- ・既設制御盤図と現地制御盤の整合確認を事前に確実に実施する。
(中央監視設備の移報用リレー回路、外部出力、行先と盤図との照合)
- ・現地にて更改対象盤(電気・衛生・空調)の外線を全チェックし、不明線の有無と用途確認を実施し、監理者へ報告して承諾を受ける。
- ・更改作業に際し、離線作業後、エレベータ連動停止の有無を現認の上、次工程に進む旨を作業手順書に明記する。
- ・エレベータの連動停止により万一、人の閉じ込めが発生した場合の初動を作業手順書に明記する。
 - ①エレベータ保守会社へ連絡(連絡先を記載しておく)
 - ②エレベータ停止階の確認
 - ③保守会社到着まで、エレベータ監視盤からインターホンでの呼びかけ(人数確認、体調確認)
 - ④救出後、閉じ込め者の所属連絡先を確認
- ・連動停止の恐れもしくは制御盤から外部への移報(停電・火災信号)が現地にて確認できない場合は、更改作業に際しエレベータが連動停止する可能性があるものとして入居者等(ビル管理含む)と調整および事前周知の上、作業実施する旨を施工計画書に明記する。
なお、停止措置に伴うエレベータ停止計画時間は最小限とし作業前後数十分程度とする。

2. 施工時の措置

- ・移報先設備は、中央監視設備更改作業時に長時間停止しない様措置(例.盤内移報線の離線処理・端子ジャンパ対応等)の上、作業を行う。

3. 施工完了時

- ・盤図の修正および盤内の注意喚起表示。
(リレー表示・線名札等)
- ・中央監視画面に移報先設備(例.エレベータ監視盤等)への移報を記入。

■ 事故事例 9 <事故概要> : 現用地下埋設給水管の切断事故

34

項 目	内 容
発 生 状 況	築庭においてバックホーショベル(0.15m ³)にて、掘削作業中に埋設されていた屋外給水配管(ビニルパイプ管)を切断した。
発 生 日 時	2013年4月4日（木） 10時30分
工 事 概 要	非常用発電装置設置のためのエンジン基礎新設、油槽外郭・トレンチ新設工事 (工期：2013年1月7日～2013年7月10日)
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	現用埋設給水管を切断

1. 事故発生状況

35

現場状況【事故発生状況】



①掘削箇所(全景)

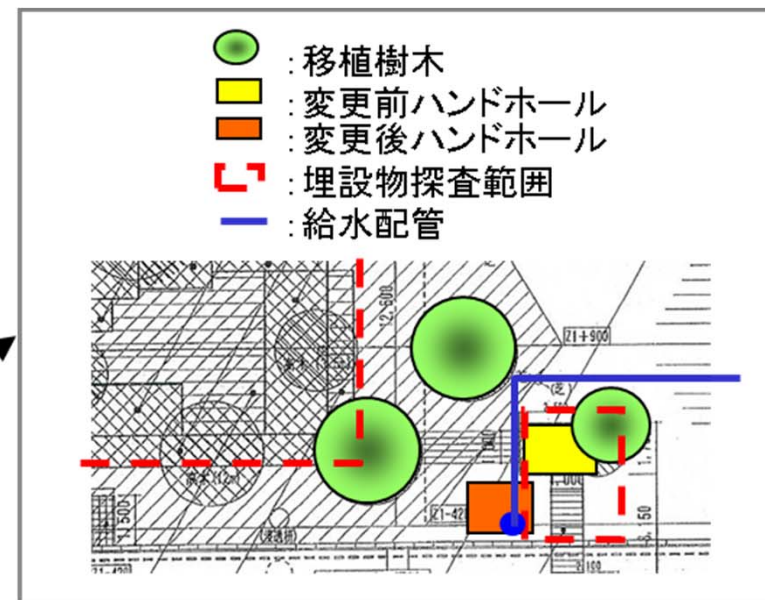
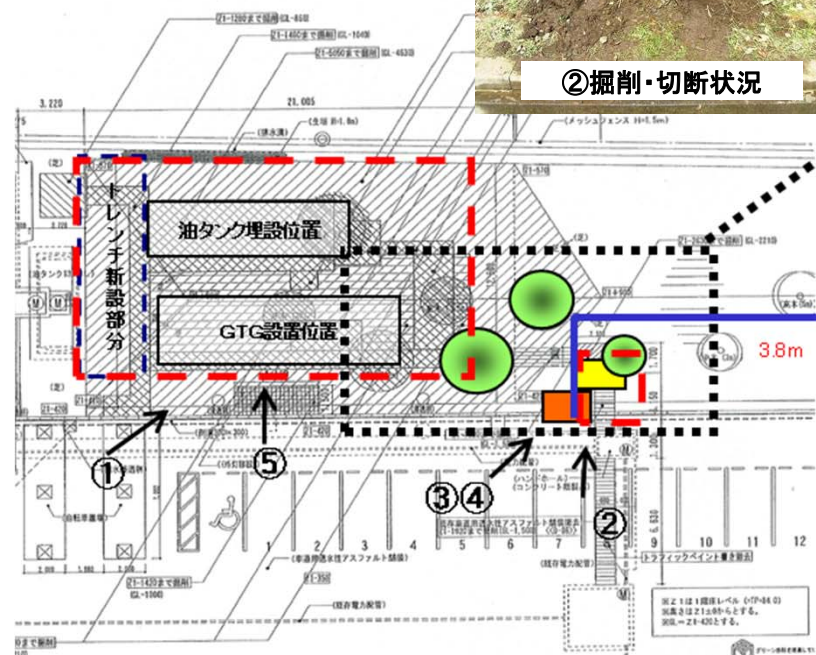


⑤埋設調査実施状況
結果:埋設管無し

拡大図



②掘削・切断状況



③切断ビニルパイプ管



④切断ビニルパイプ管(拡大)

事象発生原因

- ・現況図上の埋設給水配管が確認出来ていないにも拘らず、**手掘りによる試堀**を行わず、重機による掘削を始めた

主な問題点

- ・変更後のハンドホール位置が位置変更前の**探査実施範囲に含まれていると思い込んだ**ため、追加の探査は不要と考え、位置変更後の掘削範囲の埋設物探査を実施しなかった
- ・地下埋設物の**総合図**を作成していない
- ・埋設管が現況図面等で確認できない部分は試掘するルールを知らなかった

再発防止策

掘削範囲計画図と通信・電力・電気・ガス・給排水等の情報を集めた

総合図を作成する

【請負会社】

掘削範囲内の総合図にある埋設配管全てが確認できない場合は、

試掘にて埋設位置を確認するよう指示する

【ファシリティーズ】

■ 事故事例10 <事故概要>：衛星アンテナ電波路の遮断

38

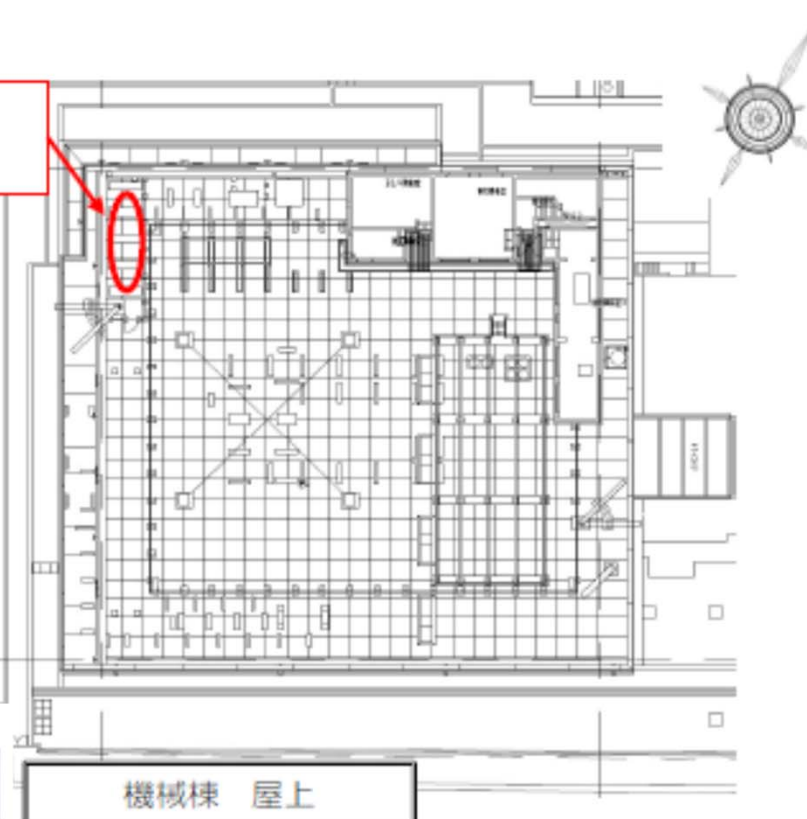
項 目	内 容
発 生 状 況	レッカーによる資材の荷揚げ、荷下ろし作業中に衛星アンテナの前をレッカーのブームが横切り、電波路を一次遮断したことによる電波障害が発生
発 生 日 時	2020年7月3日（金）10時40分
工 事 概 要	非常用発電装置設置のためのエンジン基礎新設、油槽外郭・トレンチ新設工事 （工期：2019年10月1日～2020年10月28日）
当 社 の 関 わ り	設計・工事監理
被 災 状 況	衛星テレビの電波障害

1-1. 事故発生状況

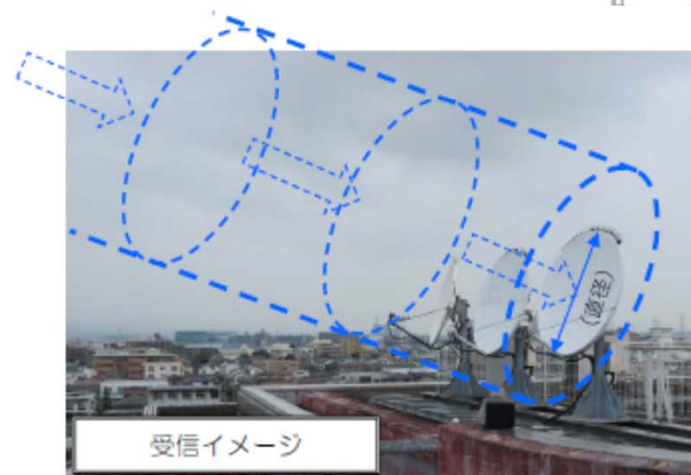
39

現場状況【事故発生状況】

衛星アンテナ
設置位置 3基



機械棟 屋上



レッカーによる資材の荷揚げ、荷下ろし作業中に衛星アンテナの前をレッカーのブームが横切り、電波路を一次遮断したことによる電波障害が発生

2. 発生原因と問題点

事象発生原因

- アンテナが屋上にあることは知っていたが、問題ないだろうと判断
- 事前の調査、および確認不足

主な問題点

レッカーによる搬出入の計画書（計画図）に衛星アンテナ電波路を計画図に記入せず、レッカーとの干渉を事前に確認していなかった

再発防止策

屋上等に設置されている、衛星アンテナを事前に調査し、搬出入の計画書（計画図）を作成し、アンテナ電波路の遮断が無いかを事前に監理者と協議する。

※アンテナ管理者と事前に干渉確認を確実に実施する